

原田正純先生の「発言」

先に紹介した『公害・環境研究のパイオニアたち』のなかで、原田正純先生については「被害者に寄り添い、『水俣学』を提唱」と題して、寺西俊一教授と津田敏秀教授が書かれている。そこでも紹介されているが、今でも鮮明に覚えているのが、2012年3月の日本環境会議島根大会における先生の会場「発言」である。写真は離れた席から、緊張して撮ったものだ。

全体シンポジウムの質疑の中で、先生は水俣病とかかわってこられた50年余の経験を踏まえ、次のように発言された。本では詳しく紹介されているが、ここでは少し簡略化して発言記録を書き移しておきたい。



--- 被害が非常に大きかったこと、現在なお未解決の問題であること、企業と行政の責任であることなど、共通点はたくさんあるんですが、今回の福島原発事故による放射能汚染の問題は水俣病よりはるかに深刻であると申し上げておきたい。(中略)水俣病の問題が半世紀にわたっても解決しないままなのは、明らかに行政と企業の責任です。今回の事故は、仮に、というもおかしいんですが、きちんと対策をとったとしても、結果が出るのは10年も20年も先、あるいは、もっと先になる。この点が違っており、水俣病よりはるかに深刻だと思います。--- 驚くべきこととして、ある有名な先生が、放射能が海に出て行って薄くなっていると言っています。私は、これを聞いてがく然としましたね。一度海で薄くなったものが、食物連鎖の中で濃縮されたというのが教訓だったのではないのでしょうか。そういったことを平気で言う方が専門家としておられることにごく然としたんです。こういったこともあり、今日は勉強のために来ました。水俣から追加で一言。どうもありがとうございました。

原田先生が亡くなる3ヵ月前の「発言」である。こうして文章を書いている、先生の言葉に圧倒される。先生はいつも患者さんに笑顔で接していた。患者さんにとって、先生の笑顔がどんなに心強かったことか。

原田先生の著作は数多いが、写真にある『対話集 原田正純の遺言』岩波書店、2013年5月から、先生の気持ちが心に伝わってくる。

「生き証人として、大事な人たちとぼくが語って残しておかんといかん。--- ちょっと手前味噌だけど、歴史に残る証言だと思うんです。」

(2014年9月25日)

